※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　家庭科

科目	家庭総合	単位数	4
使用教科書	Creative Living「家庭総合」で生活をつくろう（大修館書店）改訂版		
副教材等	なし		

	前期	後期
単位	2	2
レポート	６通	６通
必要出席回数	４回	４回
テスト	○	○

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 「家庭生活」全般について詳しく学習します。自分の生活に興味・関心がもてるように、生活の様々な現象や課題を知り、理解を深め知識を身に付けます。学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活を目指します。
- レポートは、教科書を活用し取り組み、提出期限までに提出できるようにしましょう。
- スクーリングでは、レポートの内容をより深く理解できるよう講義を行います。
- ＮＨＫ高校講座を視聴することで、反復学習だけでなく、より広い視点で学ぶことができます。

２　学習の到達目標

- 自らを取り巻く環境や、周囲で起こるさまざまな事象に対して、探究心を持ち、観察・学習することで、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を総合的に習得させ、家庭生活の意義を理解するとともに、地域や家庭生活の向上を図る能力と、それらの能力を家庭や社会で生かし働こうとする主体的・実践的な態度を育てる。
- よりよい社会の構築に向けて、生活文化を継承し、自分の家庭、地域の生活充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活など、生活を主体的に営むために必要なことを科学的に理解し、幅広い視野を持って問題意識を持ち、問題解決のために工夫しようとしている。	生涯を見通して、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠にもとづいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	衣食住や消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むと共に、それらを社会のために適切に活用しようとする実践的な態度を身につけようとしている。

- 学習指導要領(第１章第２款の５)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用することもある。
- 学期末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法 知(a)	評価方法 思(b)	評価方法 主(c)
前期	人の一生と家族・家庭及び福祉	①人の一生と生活のマネジメント ②家族･家庭生活のマネジメント ③子どもの生活のマネジメント ④高齢期の生活のマネジメント	a.　家族や家庭生活及び子どもの発達や高齢者の生活と福祉に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身につけている。 b.　自分の家庭や住んでいる地域社会の中から課題を見つけ、その解決策を考え、エビデンスに基づき、論理的に解決する方法や表現することを目指している。 c.　自分の身の回りの人々に関心を向け、主体的に人生設計や生活のマネジメントに取り組み、自らを成長させるよう取り組み、実践しようとしている。	レポート、定期考査	レポート、定期考査	レポート
前期	衣食住の生活の科学と文化	⑤衣生活のマネジメント	a.　食生活及び衣生活、住生活に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身につけている。 b.　自らの生活を通して、衣食住に関心を持ち、身体的に成長しかつ大人として自立するためのマネジメントについて考え、知識や技能を活用しながら学習している。 c．　グローバルな視点から、衣食住に関わる様々なものに関心を持ち、課題を見つけ出し、問題を解決するために実践しようとしている。			
後期	衣食住の生活の科学と文化	⑥食生活のマネジメント ⑦住生活のマネジメント				
後期	持続可能な消費生活と環境	⑧SDGs の実現をめざす社会 ⑨経済生活のマネジメント	a.最近のニュースをもとに、家計や消費生活、持続可能のなどに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身につけている。 b.自分が生活している地域社会における経済の問題や SDGs などの課題を見つけ、その解決策を考察し、論理的に解決策を考えようとしている。 c.経済だけでなく環境や人権などをグローバルな視点で探求し、今、起こっている課題の解決に取り組む姿勢を養い、自らの生活へ実践できるようにしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度